



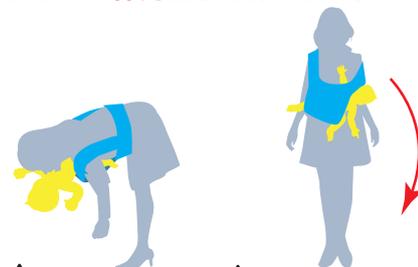
生活関連事故品ファイル

抱っこひもの事故とSG基準の改正に関して

近年、**抱っこひもから落下する事故**が増加しています。東京都の調べによると平成21年から平成26年6月までの間に、抱っこひも等から乳幼児が転落する事故が少なくとも**117件発生**しております。

事故の内容

「前かがみになったときに落下」や、「緩んだひものすき間から落下」等があり、中には重症に至るケースが発生している。



⚠️前かがみになり落下 ⚠️ゆるんだひもの隙間から落下

抱っこひもの安全対策

抱っこひもに関する安全対策として、日本では、一般財団法人製品安全協会が定める**SG基準**があります。また、抱っこひもは海外製品が広く流通しており、これらは**海外の任意規格 (ASTM や EN など)**に基づいた安全対策が実施されています。

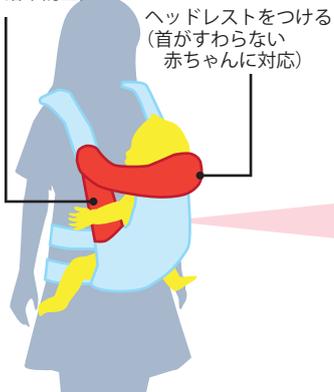
今回の事故を受け、より安全に配慮した内容にし、さらに海外製品を含めた基準の統一化を図るため、SG基準の改正がなされました。東京都においては国内外のメーカーにSGマークの取得を呼びかけ、乳幼児がいる家庭にも新基準を満たした製品の使用を勧めています。

SG新基準の例

- ・首がすわらない小さな子にも対応できる頭当てを備えていること
- ・内側部分にポケット、腰ベルト、股ベルトをつけていること
- ・取扱説明書に「警告・落下の危険性」や「窒息の危険性」等についての注意事項の追加等

抱っこひもの新基準のイメージ例 (製品安全協会の基準参照)

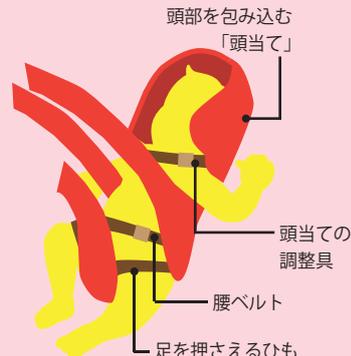
腕を通す空間をつくる
(横からの落下防止)



ヘッドレストをつける
(首がすわらない
赤ちゃんに対応)



落下防止のため、内側部分に
ポケット、腰ベルト、股ベルト
をつける。



頭部を包み込む
「頭当て」

頭当ての
調整具

腰ベルト

足を押さえるひも

納期・費用につきましては、製品や素材により異なります。詳しい検査項目、料金につきましてはお気軽にお問い合わせください。